

あなたもラム活

ラムサール条約の登録湿地になった「出水ツルの越冬地」だけでなく、湿地自治体に認証された、わがまち出水市に誇りを持ち、この豊かで恵まれた自然環境を守っていかねばなりません。わたしたち一人ひとりに何ができるかを考え、実行することで、世界に誇れるわたしたちのまちを未来に引き継ぎましょう。



いずみ市とラムサール条約

ラム活リスト

あなたが心がけていることや、やったことがあることに☑をつけましょう。

<input type="checkbox"/> ふるさと出水 クリーン作戦 への参加	<input type="checkbox"/> 干潟や海岸の 清掃活動	<input type="checkbox"/> バード ウォッチングを 楽しむ	<input type="checkbox"/> クレインパーク でツルについて 学ぶ	<input type="checkbox"/> クレインパーク の博物館講座 へ参加
<input type="checkbox"/> ラムサール条約 やツルについて 調べる	<input type="checkbox"/> 田んぼや干潟の 生きもの について調べる	<input type="checkbox"/> 湿地の景色を 楽しむ	<input type="checkbox"/> 潮干狩りや 魚釣りを する	<input type="checkbox"/> 環境にやさしい 製品を使う

感想

このパンフレットを読んで学んだことや、これからどのような取り組みをしていきたいか、今の気持ちを書きとめましょう。

出水市とラムサール条約～わたしたちのまちの恵まれた湿地について学ぼう～
発行/出水市商工観光部 ラムサール推進室 初版/2022年10月発行

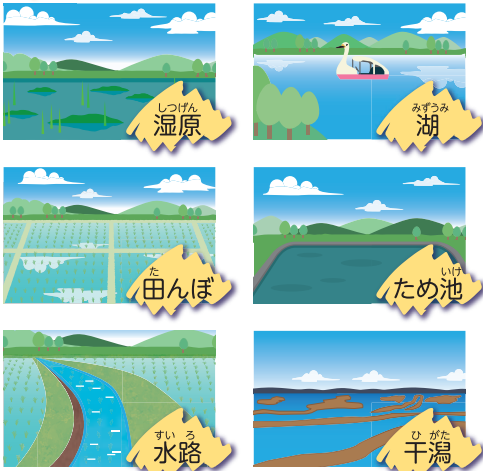


ラムサール条約とは

ラムサール条約は、「湿地の保全」と「湿地の賢明な利用」を目的とした条約です。

まずは湿地について理解しよう！

例



定義 ラムサール条約では、人工のものも、一時的なものも、水深6mまでの海も、湿地と定めています。ほとんどの水辺が、湿地ということになります。

役割

「生き物のすみか」+



植物、動物、人間といった様々な生態系にとって、湿地は大変重要な役割を担っています。

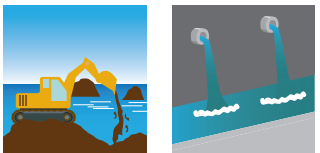
すべての生物は他の生物と互いに支えあいながら生きています。このように複雑な関係性をバランス良く保つための基本となるのが「生物多様性」です。例えば、ある1種の昆虫が大幅に減った場合、その昆虫をエサとする生物も減っていきます。このように生物多様性のバランスが崩れると、その地域の生態系全体の危機につながります。

出水の湿地のシンボルは、「ツル」です。



困った！

世界中で湿地の干拓や埋め立てなどの開発が進み、湿地が減ってきていることから川や海が汚れ、そこに住む様々な生物の絶滅が心配されるようになりました。



条約を締結

「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」を結びました。

イランのラムサールという町で結ばれたので、「ラムサール条約」と呼ばれています。



- いつ? 1971年2月2日 第1回目の会議について
- だれが? 18か国の代表者
- 何のために? 世界の国々が協力して、世界の重要な湿地を守り、湿地の自然を壊さないようなかたちで賢く利用するため。

ラムサール条約を結んでいる国

締約国数 → 172

条約登録湿地 → 2,439ヶ所

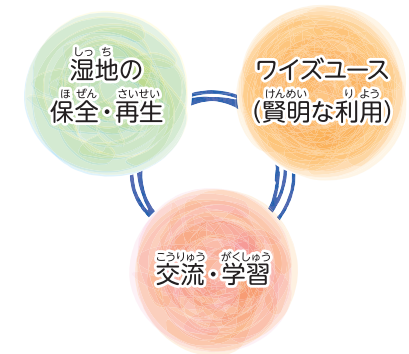
登録湿地の総面積 → 254,688,925ha



日本の面積の約7倍！

(2022年10月現在)

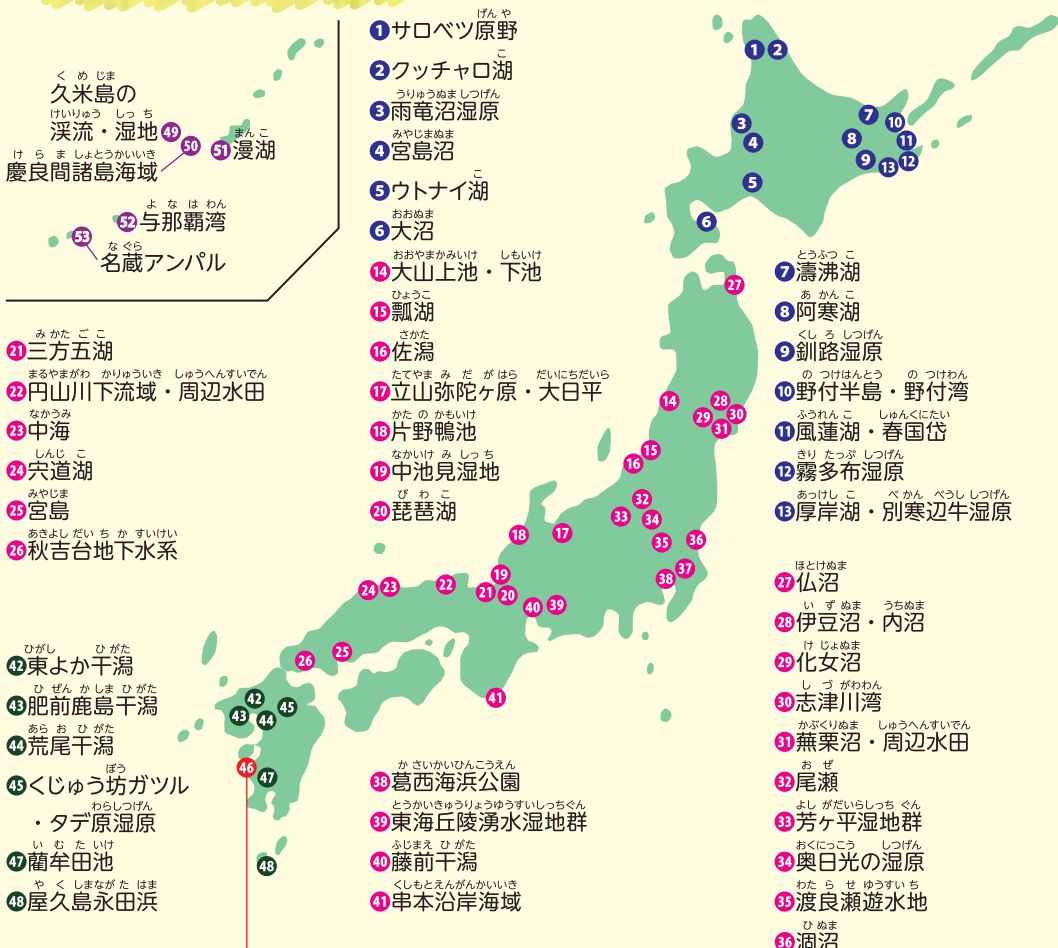
ラムサール条約の3つの柱



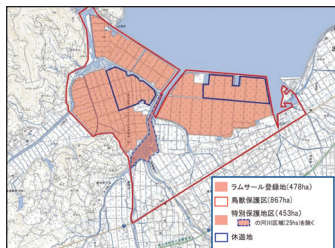
日本のラムサール条約湿地登録

日本最初の登録湿地は、1980年の釧路湿原です。

ラムサール条約湿地 位置図



46 出水ツルの越冬地 (2021年登録)



範囲	荒崎・東干拓・西干拓の水田と高尾野川河口の一部
名称	出水ツルの越冬地
面積	478ha

国内のラムサール条約湿地	登録湿地数 …… 53ヶ所
	総面積 …… 155,174ha

(2022年10月現在)

出水市のラムサール条約登録

2021年 「出水ツルの越冬地」がラムサール条約湿地に登録
2022年 「出水市」が日本で初めてのラムサール条約湿地自治体に認証

国際的に重要な湿地と認められるラムサール条約に登録されるためには、9つの国際基準や日本での登録条件に該当する必要があります。「出水ツルの越冬地」は、この国際基準のうち4つを満たし、日本での登録条件にも該当しています。



絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地

絶滅危惧種のナベヅル、マナヅルが越冬する



動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地

ナベヅル、マナヅルの越冬地として、重要な湿地である



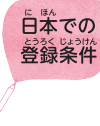
定期的に2万羽以上の水鳥を支えている湿地

ツル類を含め、2万羽以上の水鳥が毎年越冬する



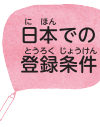
水鳥の1種または1垂種の個体群で、個体数の1%以上を支えている湿地

世界のナベヅルの約90%、世界のマナヅルの約40%が毎年越冬する



国の法律により、将来にわたって自然環境の保全が図られること

「鳥獣保護管理法」および「河川法」で自然環境の保全が図られている



国際的に重要な湿地であること(9つの国際基準のいずれかに該当すること)

4つの国際基準に該当しており、国際的に重要な湿地である



地元住民の合意が得られること

ラムサール条約湿地登録にあたり地元住民の合意を得ている

いずみ えつとうち しゅうめん しっち い 「出水ツルの越冬地」周辺の湿地と生きもの



「出水ツルの越冬地」は主に干拓地で、早期米や普通米を生産している田んぼです。干拓は江戸時代から始まり、およそ300年かけて行われ、今の姿となりました。湿地には、その豊かな生きものをエサとする、水鳥などの動物が集まります。出水市では、およそ300種の野鳥の観察記録がありますが、中でも全国的に珍しいのは、やはり「ツル」でしょう。

出水市は、日本最大のツルの越冬地で、世界15種のツルのうち7種と1雑種の渡来記録があります。出水市で越冬するツルで一番多いのはナベヅルで、次が多いのがマナヅルです。

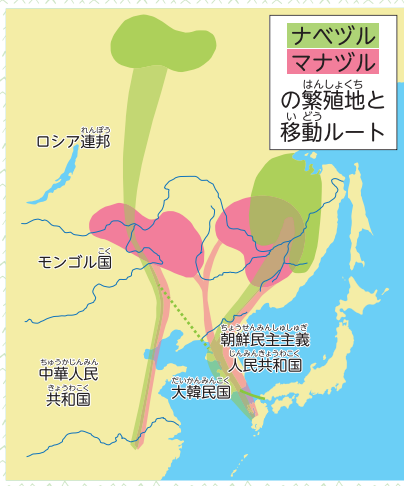


ナベヅル
世界の約90%が出水で越冬



マナヅル
世界の約40%が出水で越冬

東アジアのツル類の繁殖地はロシア、モンゴル、中国です。出水には毎年10月半ばに第一陣が渡来して冬を過ごし、2~3月にかけて北帰行します。



じょうやく もくでき そ かつどう ラムサール条約の目的に沿った活動

いちれい しょうがい 一例を紹介します



自然素材(ワラ)を使ったツルの保護柵設置



エコツーリズムガイド養成



ふるさと出水クリーン作戦



ギフト&レシピ創作



島津樋門跡の整備

安全・再生

オリジナルロゴマークの活用
ワイズユース (賢明な利用)



交流・学習

ラムサールレンジャーの活動



ラムサール条約やツルについての出張授業



博物館講座

出水ツルの越冬地利用調整

2016年度からツルの越冬時期に合わせて「出水ツルの越冬地」エリアの入域制限をしています。

何のために？

鳥インフルエンザが発生し、絶滅危惧種であるツルが集団感染すれば、ツルの絶滅を引き起こしてしまうかもしれません。また、出水市の重要な産業である養鶏業にも大変な影響を与えてしまいます。それらを防ぐために、

通行ルートを指定したり、消毒の徹底をしたりして、協力をお願いしています。

